

機庵と號す 法橋 天正十九年五月六日、洛陽に生る、十五歳より、施藥院宗伯、壽命院立安に玄たがひて、醫術をまなぶ、みづからおもへらく、當世名醫、その人に乏しからず、玄かれども小兒の醫となるものすくなし、こゝにをひて洛の妙心寺にゆき、庸山禪師に玄たがひ、小兒の醫をまなびて、はなはだ勤たり、庸山小兒の醫術をもつて時に鳴、その學、渭竹よりあひつたふといふ、元和三年越後の少將光長、三歳のとき、疳痢をうれふ、諸醫をまねきこれを療すれども、數月にをよびて玄るしらす、ときに台德院殿秀忠○徳川板倉伊賀守勝重に命じ、京洛の兒醫をして、これを治せしめたまふ、こゝにをひて、宗活その撰にあたり、越前にゆき、醫を獻する事數貼にして平復あり、○下

〔山城全州墓碑銘集大成儒及醫部四〕仙壽院山科厚安墓誌銘在洛東真如堂

君諱厚安、字元溫、號南澗、藤原姓、山科氏、世幼科醫、○中延享元年、君年十六、召診諸皇子、因觀其才識、明年賜法橋位、與父同升諸朝、三年、皇太子園桃登祚、父宗安告病辭職、勅君代父調進御藥、迺賜父祿廿口糧、○中皇太子踐祚、掌御藥如故、隨例給廩米百囊、九年上既長、大移尙藥于體療、因增賜十口糧、以賞阿保功宿直診御如故、安永二年、上患痘、令君調進御藥、皇太后亦發痘、召君監視藥餌、七年掌長公主醫藥、明年今上入承大統、君專掌御藥、隨例給廩米百囊、君勞病不起、天明元年辛丑八月五日卒、距其生享保十四年己酉正月十五日享年五十有三、○中歷事四朝、奉事六宮、除病喪服外、夙夜在公、外朝內庭服其才能、是以爵祿日進、恩賜無算、今古醫官不盈廿、掌御藥不踰卅、陞法印位者、以君爲初、不亦榮乎、○中

天明二年壬寅秋八月五日

父執 張藩醫官勝惟寅誌銘  
義子 御醫法橋悰安建石